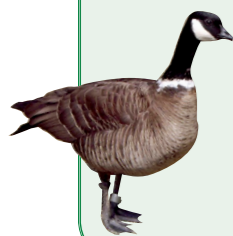




シジュウカラガンを救え！ 絶滅の危機を回避するための30年

鳥類の繁殖で定評のあった八木山動物公園では、かつて仙台に渡ってきていたシジュウカラガンが絶滅にひんしていたことから、昭和58年に「野生シジュウカラガンの羽数回復計画」を策定し、園内での繁殖を開始しました。



平成7年からロシアでの放鳥を開始し、試行錯誤を重ねた結果、平成17年に11羽が飛来。また、生後1～2カ月の子どもはマガンなどの渡り鳥について来るとも発見しました。

30年に及ぶ努力の結果、平成26年には1,000羽を超えるシジュウカラガンが飛来。長年携わってきた職員たちの努力が実りつつあります。

開園当時のスター アジアゾウの「トシコ」

●飼育期間＝昭和38年10月～平成24年7月
昭和28年生まれで、堺市の動物園から来たトシコ。仙台市動物園時代から、人を乗せるなど多くの人に愛されてきました。10月18日から骨格標本としてビジターセンターに展示され、来園者を迎えます。



チンパンジーの「賢坊」

●飼育期間＝昭和40年10月～昭和46年1月
開園式では当時の市長と手をつないで園内を回り、拍手喝采を浴びました。自転車や竹馬を乗りこなすなど、八木山動物公園のアイドルでした。

八木山に動物公園ができるまで

昭和11年、広瀬川沿いの評定河原（青葉区花壇）に、全国で11番目、東北では初となる「仙台市動物園」が誕生しました。昭和20年の仙台空襲で焼失し閉鎖しましたが、昭和32年、市民の熱い声により、青葉区荒巻三居沢に子ども向けの動物園として復活。その後、テレビ番組での子どもたちからの要望を受け、昭和40年に八木山に引っ越しし、10月15日に「八木山動物公園」が誕生しました。

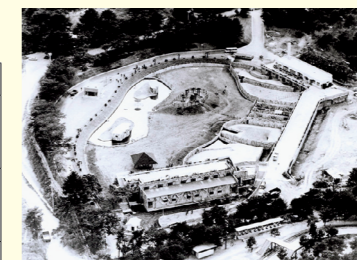
開園50年を振り返る

入園者数のべ2,600万人

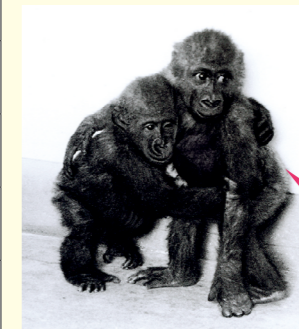
年代	主な出来事
昭和40年 10月15日	八木山動物公園開園 (展示種目100種類・360点)
昭和42年	サル山完成
昭和44年	アフリカ園完成
昭和53年	ゴリラ舎・は虫類館完成
平成11年	アフリカ園リニューアル
平成14年	猛獣舎リニューアル
平成22年	ビジターセンター完成 (骨格の展示や研修室)
平成23年	東日本大震災発生
平成27年	八木山動物公園開園50周年 (展示種目126種類・479点)



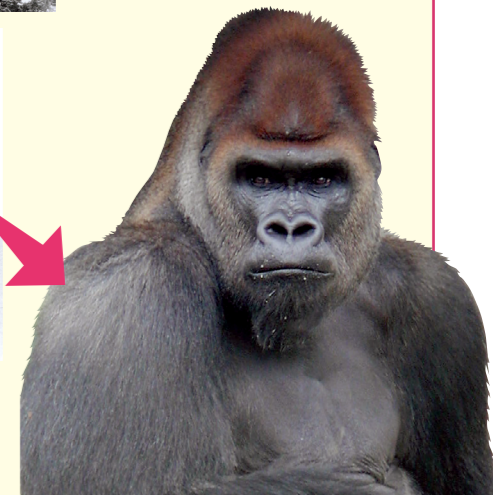
◀芸達者な動物を一目見ようと、大勢の市民が来園（昭和39年頃撮影）



◀敷地には、宮城県営八木山野球場の跡地が含まれており、アフリカ園は球場の形を残したまま整備されています（昭和43年撮影）



▲オランダから来たニシゴリラのドン（右）とローラ（昭和46年頃撮影）
▶ドンは国内最高齢の46歳



楽しく学べる施設を目指しています



勤務歴27年の阿部副園長

開園50周年を記念して、6月から「おもしろい副園長のガイドツアー」を開催しています。白いしっぽを付けて園内の見どころを紹介する阿部敏計副園長の名札には、来園者の皆さんの幸せを願って「福園長」と書かれています。

「今後は市民の憩いの場としての役割を大切にしつつ、動物の生態が学べるイベントの実施や、ヤギやヒツジなどの動物と触れ合える『ふれあい動物園』の整備など『楽しく学べるミュージアム』としての機能も充実させていきます」と語ってくれました。

プレゼント

抽選で5人に動物公園50周年オリジナルグッズをプレゼントします（直接、本人あてに郵送）。
●応募方法はがきに①住所②氏名③電話番号④市政だよりの感想を記入して10月22日までに
●申・問〒980-8671（住所記入不要）広報課「動物公園プレゼント係」☎214・1150



この特集に関するお問い合わせ、イベントの申し込みは八木山動物公園 ☎229・0122

50周年記念イベントに参加しよう

通常の催しは19ページ

- 50周年記念限定年間パスポート
 - 発売開始日＝10月10日(土)
 - 販売場所＝正門および南門の入園券売り場
 - 価格＝1,000円
 - 販売枚数＝500枚（なくなり次第終了）
- 開園記念特別イベント
 - 期日＝10月11日(日)
 - 内容＝ウサギなどの動物との触れ合い、餌やり体験など
 - 直接会場へ
 - 当日、中学生以下の入園料が無料です
- 開園記念日全員入園無料デー
 - 日時＝10月15日(休)
 - 正門・南門で記念グッズを配布します（500人〔先着〕）
- おもしろい副園長のガイドツアー
 - 日時＝10月17日(土)10:00～11:00
 - 内容＝八木山動物公園の50年の歴史を振り返ります
 - 定員＝20人〔先着〕
 - 入園料が必要
 - 申10月6日午前9時から電話で

東日本大震災を乗り越えて



◀全国各地の動物園や水族館、一般の方から支援が届きました



▶母親に見守られ、元気に遊び回るスマトラトラの子どもたち（生後5カ月頃）

東日本大震災では、建物の倒壊など大きな被害はなかったものの、電気・水・ガスなどが停止。獣舎は灯油ストーブで暖をとるなどの対応でしのぎました。餌不足も深刻でしたが、全国からの温かい支援で乗り切り、4月23日には再開園することができました。

さらに同年、オランダとホノルル（ハワイ）から「GANBARE」というメッセージを携えて来園した2頭のスマトラトラの間に、平成25年5月、4頭の赤ちゃんが誕生しました。国内で16年ぶりとなるスマトラトラの赤ちゃんの姿は、皆に元気を与えてくれました。